

## かながわ経済新聞 2019.6月号

### 吉田英訓の 連載記事が掲載されました

**人財の活用⑥**

前回から「ワークライフバランス」についてお話ししていますが、今回はより掘り下げて話をしていきます。

今、なぜ仕事と生活の調和が必要なのか。それは、仕事と生活が両立しにくい現実があるからだと思います。

仕事は暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらします。その一方で、私生活のその充実が落ちて、人生の生きがいや喜びは増えています。

しかし現実には「安定した仕事に就けず、経済的に自立することができない」「仕事に追われ、心身の疲労から健康を害しかねない」「仕事と子育てや親の介護との両立に悩む」など、仕事と生活の間で悩む人が大勢います。

背景としては、国内外における企業間競争の激化や長期的な経済の低迷などがあります。生活の不安を抱える「正社員以外の労働者」が増加する一方で、正社員の労働時間は高止ま

りしたままであることもあります。

そうした中で、利益の低迷や生産性向上が困難といった理由から、働き方の見直しに取り組むことが難しい企業も存在しています。

とはいえ、人々の生活は変化してきています。かつては夫が働き、妻が専業主婦として家庭や地域で役割を担うという姿が一般的でした。しかしながら、現在では女性の社会参加が進んでいます。

それにもかかわらず、働き方や子育て支援などの社会的基盤は、こうした変化に対応しきれません。

このように、仕事と生活の間は、昔と比べて多くの変化が生じてきており、年々調和が取れなくなっているのが現実といえるでしょう。さて、今回は今回の内容を踏まえて「働き方の多様性」などについてお話ししていきたいと思っています。

(ミヨシ・ロジスティックス代表取締役/関西フォーラム委員長)



吉田英訓の  
着眼大局 着手小局  
～人と企業～